

幸福大国・デンマーク流 教育のかたち

～フォルケホイスコーレ(大人のための学校)への留学
と小中高校への訪問を通して見えてきたもの～

構成

1. はじめに
2. 《チェックイン》自己紹介 & 問いをもつ
3. 「大人の学校」—理論編—
4. 《バズセッション①》 問いをもつ
5. 「大人の学校」—体験編—
6. 質疑応答①
7. 「子どもの学校」—理論編—
8. 《バズセッション②》 問いを深める
9. 「子どもの学校」—体験編—
10. 考察と現在の活動
11. 《チェックアウト》「こたえ」を得る
12. 質疑応答②

自己紹介

宇佐川 拓郎(うさがわ たくろう)

①生まれと育ち

- ・1990年 北海道札幌市生まれ
- ・小さい頃から、とにかく、友だちと一緒に遊ぶことが大好き
⇒遊びを考え、巻き込むことが大好きだった・・・！
- ・遊ぶ時間が沢山あった小学校時代。良き思い出となる。
- ・「楽しい世界に生きる」小学生と一緒にいたい、という思いから、「小学校の先生は面白そうだ。」と思う。
- ・東京の大学へ入学したく、18歳で東京へ。
⇒「学びたいことを学ぶ面白さ」に出会う。

自己紹介

②小学校教員としての経験

- ・東京都の小学校で5年間ほど勤務。
- ・「自分が思い描いていた」先生像や学校像とのギャップ…。
「とにかく、忙しい…。」
- ・そもそも、なぜ教員になったのか、どんな教員になりたいのか、
教員として何をしたいのか、…が見えなくなっていく。
- ・一度、自分のいる場所(東京)の教育環境を離れて見ると共に、
自分なりの教育へのアプローチの仕方(軸)を見付けたい。
- ・海外と、国内の「地域の教育」への関心。

～幸福大国～デンマーク



○フォルケホイスコーレとは？

- ・「『生』のための学校」と言われる。 ・学校教育に属する。
- ・1850年頃から設立が始まる。現在、デンマークに70校程が存在。
- ・理念をつくった人物＝**グルントヴィ**。
- ・デンマークの歴史と言語を中心に据え、①社会的最下層に置かれた農民の啓蒙
②政治家を含め、あらゆる社会階層の自治的・自律的能力の底上げを理念に。
- ・18歳以上の成人が対象。
- ・原則、全寮制による学校。修学期間は短期では数週間、1ヶ月～10ヶ月。
- ・試験も単位もなく、卒業時に資格も与えない。
- ・国から約85%程度は、補助を受ける。
 - ・「ホイスコーレ」という言葉自体は、元々「大学」を意味した。
⇒「専門的ではない」学校として、(広く)人々の自発的な運動として生じてきた。
- ・クリステン・**コル**が、18歳未満を対象としたホイスコーレを作る。
⇒エフタスコーレ(フォルケホイスコーレの10年生段階対象版)と、
小中学校のフリースクール運動の潮流を作る。

【グルントヴィ】—「民衆教育」の産みの親
デンマーク近代教育の思想的支柱¹⁷⁸³⁻¹⁸⁷²



○理論化の問い

- ・日本の教育社会は、国家主導により発展した結果
〈トップダウン〉の構造が根付き、

- デンマークの教育社会は、民衆主導で発展した結果
〈ボトムアップ〉の構造が根付いたのではないか。

- ・日本の教育社会を現代と未来社会に適合させていくためには、
〈ボトムアップ〉型に切り替えていく必要があるのではないか。
また、そのための道筋をどう具体的に描くことができるか。

5. 大人の学校 —体験編—

【生徒と先生、スタッフによる共生生活】



【先生も共に食事】—距離の近さ



スタッフとの共生



【共生のすがた】

- ・衣食住を共にする「距離の近さ」
 - ⇒①生徒同士(先生方によるコーディネイトもあり)
 - ②生徒と先生
 - ③スタッフとの近さ
 - ⇒一体となって、学校生活を「運営」
- ・時間と空間を、共にすることの重要性
(時間は長く、空間は自由に)
- ・「ヒュッゲ」hygge(居心地の良さ)
- ・「自然」の中で／「自然」と一緒に、共生をする
- ・「共生」を通して、相手や自然との関係の中にある「自分」を、見付ける

【共に歌を歌う】



【メインサブジェクト】

CROSSING BORDERS (留学生対象コース)



【授業のすがた】—あなたと私の相互作用

- ・自分の特徴や生い立ちを「持ち込んで」、クラス(チーム)に貢献する

- ・**生きた言葉**

自らの経験を語る ⇔ 相手の経験に耳を傾ける

- ・**対話と相互作用**

知識を受け、自分の経験・感じ取ったことを重ね、対話をする

⇒学習者間【教員含む】で、相互の経験が混り合い、作用をし合っていく

- ・学び合う環境におけるリラックスの重要性

⇒自己の心身の状態に対して、「ニュートラル」になる

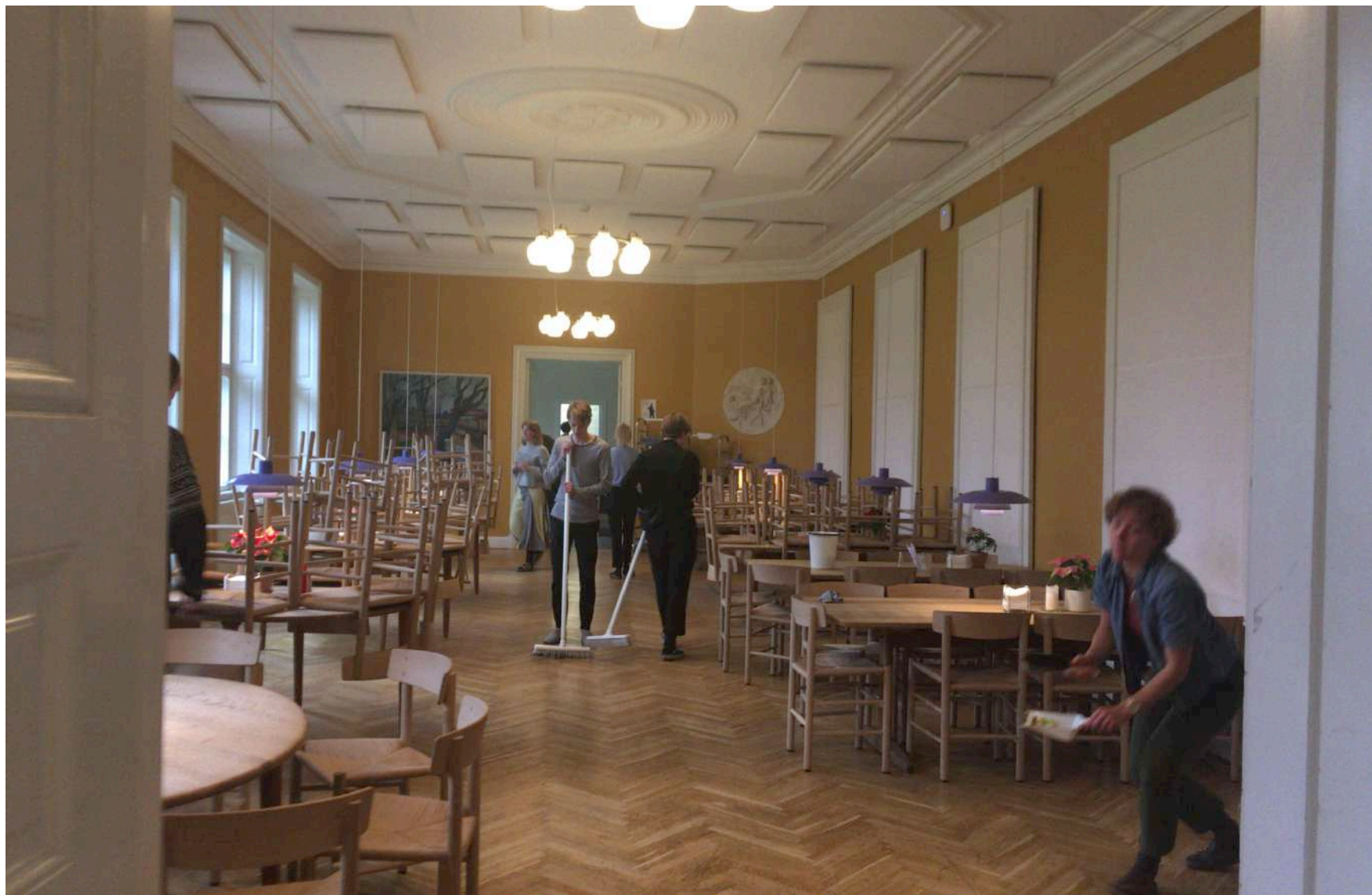
- ・3つのバリュー

①問題解決能力 ②信頼 ③情熱+楽しさ

- ・チェックアウト＝「何を得たのか」言葉に変える

⇒「エンライトメント」(enlightment) ⇒「内側」から、気づきを得る

掃除の時間



グループ対抗によるスポーツ大会



変容

- ・考えることよりも、「**行動を起こす**」こと
- ・「**想い**」にこそ、耳を傾けたい
- ・想いや意識は、他者と伝わり合う ⇒ 行動に変化が起きる
- ・行動は、人に伝わる ⇒ **行動と行動は、繋がる**
- ・「何のために、『**真剣に**』いくか。」
＝「共生」の感覚／地域で、そして世界で起きている問題
- ・「**人と共に、『楽しむ』こと**」の価値の再発見
- ・「**真剣さ**」と「**楽しさ**」は相性が良い。両方を大切にしたい
⇒自分にとっても、コミュニティにとっても

コルによる教育社会への影響～私教育から公教育まで～

- ・カリキュラムと教育内容の独自性

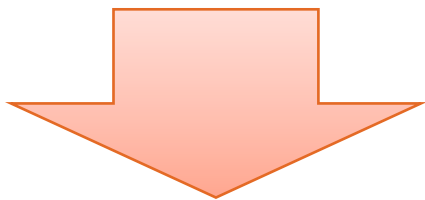
⇒ 国家あるいは教会が指定する教科書を使用しない・試験をしない

- ・オルタナティブスクールの認可に繋がる。

⇒ 教育の多様性、少数者の教育の自由の保障という基盤を固める

- ・設立当初より、フリースコーレやホイスコーレを出た農民達が議員や政権政党となったりした歴史がある

⇒ **近代デンマークの公教育の制度設計にまで影響を及ぼす**



「国家からの教育の自由」という特色が形成された。

教育制度の特徴 ②学校づくりと親の参画

【五つの(設立の)自由】

①**理念的自由**(「いかなる自由に基づいても学校を設立する自由が国民にある」)

②**教育的自由**(「いかなる教育内容・手法の学校でも学校を設立する自由が国民にある」)

③**経済的自由**(「学校には、政府からの補助金をもとに運営する自由がある」)

④**雇用の自由**(「学校は理事会をもち、雇用する職員の資格や技能を決める自由は理事会にある」)

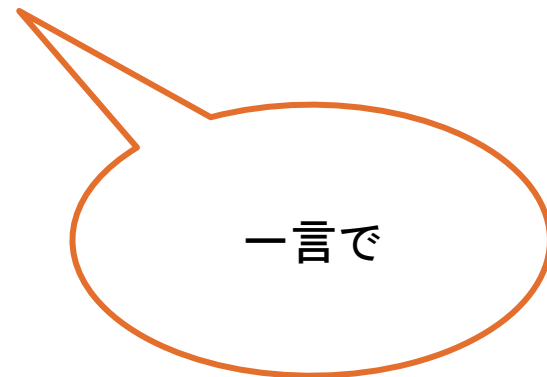
⑤**生徒の自由**

(「生徒はどの学校にも入学を申請でき、また学校側には学校方針に合わない生徒の入学を拒否ができる自由がある」)

????????????????????

「学校」って、何のためにあるの

????????????????????



9. 子どもの学校 —体験編—

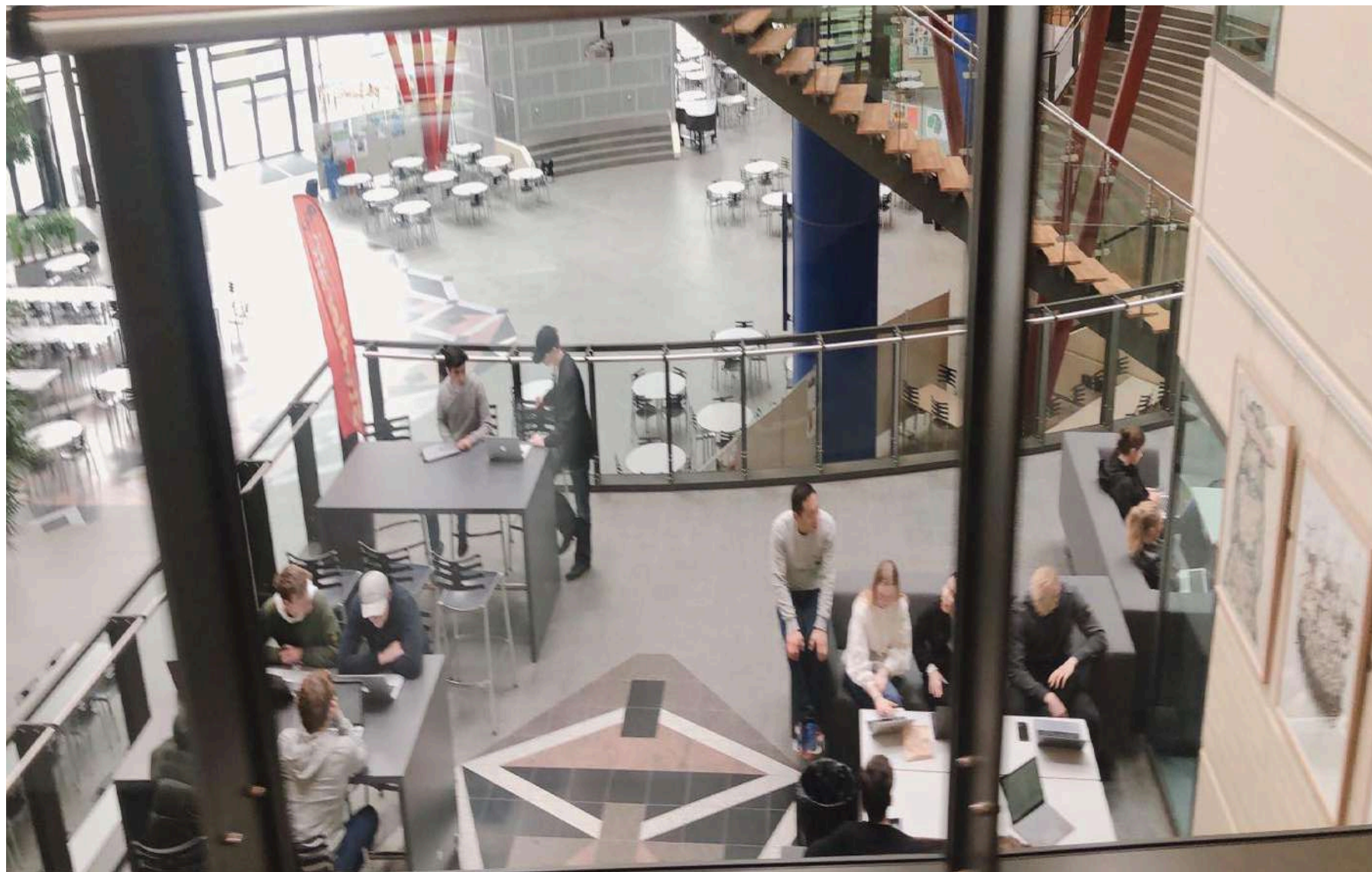
活発な挙手



開放的な校舎 / 机椅子の多さ



グループワーク&憩うことの多さ



先生へのインタビュー

○教育の内容について

- ・授業は、グループワークや討論形式が大半(⇔一方通行の授業は殆ど無い)
- ・「民主主義」の素養を育てることが重要
 - ⇒80%以上という若者の高い投票率
- ・高校に議員が来て、討論を交える学校もある
 - ⇒国を担う人々(民)の意識の啓発
- ・教える内容や中身について、**教員による裁量権が非常に大きい**
 - ⇒**国によるカリキュラムはあるが、「抽象的な形でのみ」影響する**
- ・なぜなら、**"Self-Leading"**(自己自身を導く)ことこそが教師にとって最重要
 - ⇒**各々が、"the best way"**(最善の教え方)を選ぶ
- ・結果的に、**教え方や内容は、ユニークなものになる**
- ・先生同士、お互いの生徒への教え方に対して、敬意をもっている
- ・親との連絡は殆どない ⇒ 18歳以上からは全て生徒へ

先生へのインタビュー

○働き方について

- ・残業は基本的にない。

 - ⇒労働環境に関する決まりは遵守される。(週37時間の上限)

- ・中には、時間を超えて、教材準備等のために多く働きたい先生もいる。

- ・働き方に、柔軟性がある。

 - ⇒週37時間の労働時間を各自で調整できる。

 - (ある週の労働時間を減らし、別の週にその時間を回すなど。)

- ・職場の「外」で働く時間も、含めてよい。

 - ⇒自宅で授業準備をする、など。

 - ⇒子育てをする上でも、好条件。

- ・その前提には、「教員間の互いの信頼がある」

※教育改革の影響により、教員間での負担や心理的プレッシャーは近年増している傾向にある

○結論

以上の諸特徴により、
デンマークの教育社会は、
〈ボトムアップ型〉の構造によって
運用されていると言えるのではないだろうか。

○次なる問い

①〈ボトムアップ型〉の教育環境が、
「自他の幸せな人生を尊重する教育」に、どう関わっているのか。

②日本の教育環境〈トップダウン型？〉の特徴と、
差異は？

③日本の教育環境を〈ボトムアップ型〉に切り替えていく
ことは、可能か。
どんな変化の起こし方があり得るか。